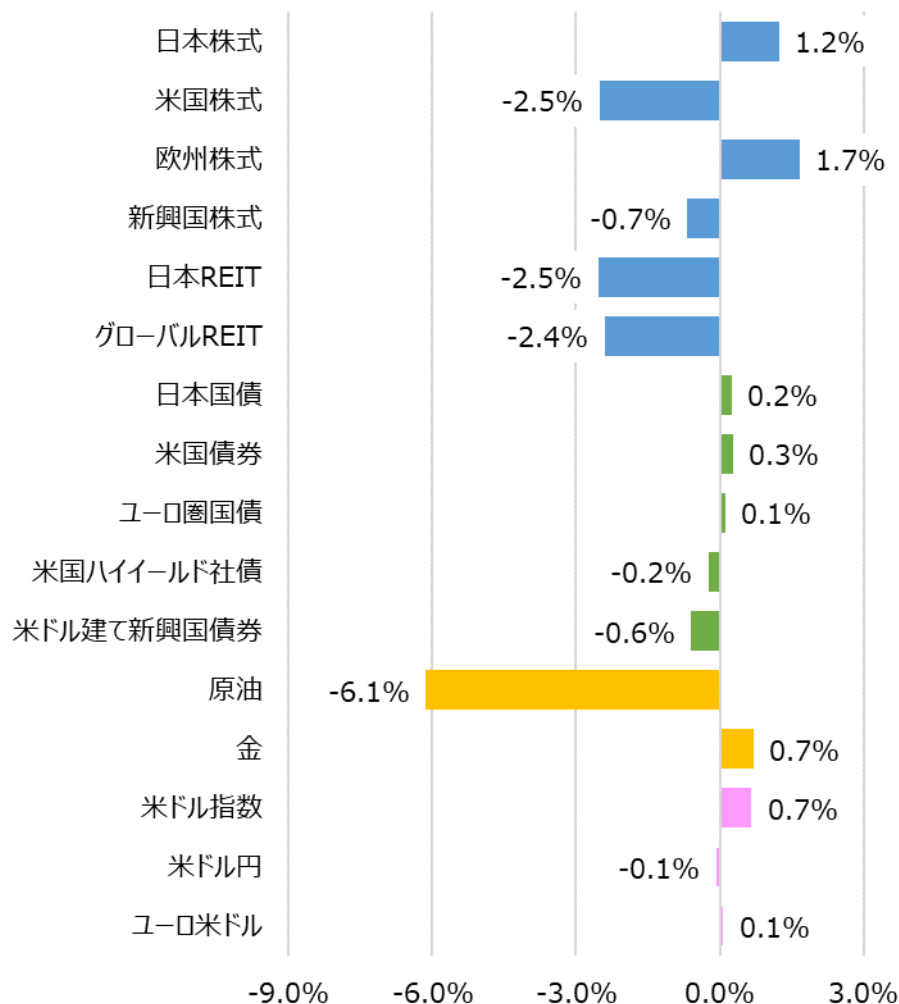




# Weekly Market Review

期間：2020年9月7日～9月11日



## 【日本株式】

内閣府発表の景気ウォッチャー調査で現状と先行き判断指数がともに改善し、機械受注額（船舶・電力を除く）は前月比でプラスに転じるなど、**良好な経済指標**が相場を支えました。東京都がウイルス感染への警戒レベルを引き下げ、23区内の飲食店等に対する時短営業要請を解除すると決定したことも好感されました。

## 【米国株式】

値動きの激しい展開でした。コロナ禍においても堅調な業績が期待され、相場を牽引してきた**大型ハイテク成長株への売り圧力**は弱まりませんでした。新型コロナウイルスへのワクチン開発を進める欧米製薬会社9社が、治験が完了するまで当局に認可を求めないことなどを内容とした共同声明を発表したことなどから早期のワクチン普及への期待が後退したことや、**米共和党が議会で提出した新たな経済対策法案が事実上否決**されたことも重荷でした。

## 【欧州株式】

**ドイツの鋳工業生産が着実な伸び**を示し、生産活動が緩やかながらも回復していることが確認され、投資家に安心感を与えました。ただ、英EU間で離脱条件交渉が停滞していることや域内の感染再拡大が勢いを増していることなどが上値を抑えました。**英政権はEUとの離脱協定の一部を修正する国内法案を議会に提示**し、欧州委員会はこれを9月末までに撤回するよう求めました。英イングランドでは感染拡大に伴い、7人以上の集会を禁じる新たな行動規制を14日から導入する予定です。

## 【新興国株式】

**トランプ米大統領が経済面で中国とのデカップリングを進める可能性に言及**したことなどから米中対立の先鋭化懸念が強まりました。中国の他、感染拡大により再度**首都ジャカルタの封鎖措置**を決定したインドネシアなどが冴えない動きでした。一方、追加経済対策として補正予算の編成を決めた韓国などがプラス貢献でした。

## 【日本REIT】

前週まで直近高値圏で推移していたことから利益確定売りが優勢でした。4日に米長期金利が急上昇し、財務体質の悪化が警戒されたことも重荷でした。オフィスや商業施設、物流関連REITが特に軟調でした。当期間中の日銀の買い入れ額は12億円でした。

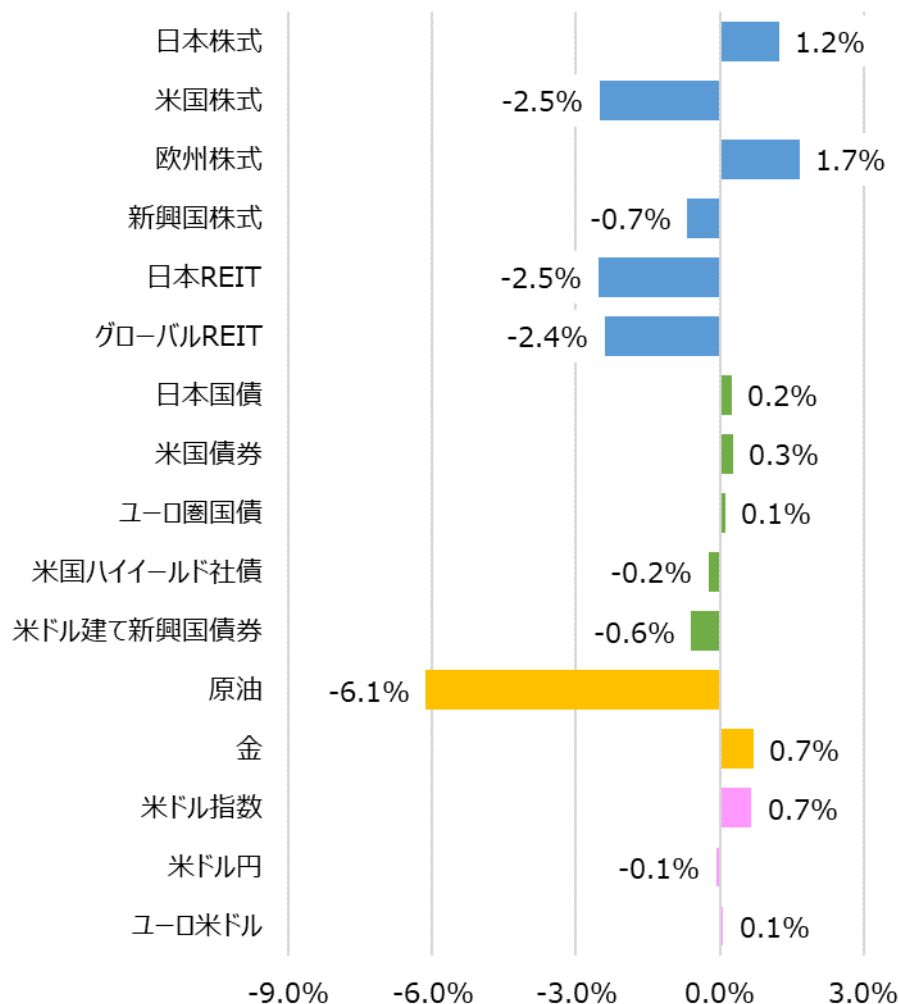
## 【グローバルREIT】

米国株式が値動きの荒い展開だったことから、リスク回避姿勢が強まりました。マイナス寄与度の高かった米国では、住宅用やオフィス、商業施設関連REITが冴えませんでした。



# Weekly Market Review

期間：2020年9月7日～9月11日



## 【日本国債】

20年国債入札が無難な結果となり、買い安心感に繋がりました。日銀国債買い入れオペでは中期債の売り圧力の弱さが確認されたことも相場の支えになりました。

## 【米国債券】

米株式市場が値動きの荒い展開だったことからリスク回避姿勢が強まり、安全資産とされる米国国債市場に資金が流入しました。30年国債入札では堅調な需要が確認されました。週末にかけては15-16日に開催されるFOMCを前に手控えムードが強くなりました。

## 【ユーロ圏国債】

ECB理事会では政策の現状維持が決定されました。経済見通しでは20年のCPI上昇率が据え置かれ、経済成長率は上方修正されました。追加緩和策への期待が後退し、長期金利は上昇基調で推移しましたが、11日にレーンECB専務理事がユーロ高によるインフレ率の低迷と追加金融緩和の必要性に言及したことで、同日の長期金利は急低下しました。ジョンソン英首相がEUとの自由貿易協定（FTA）合意を断念する可能性に言及したことでリスク回避姿勢が強まったことも相場を支えました。

## 【米国ハイールド社債】

原油価格が大幅に調整していることから、エネルギーセクターの下げ幅が大きくなりました。一方、株式市場で景気敏感株に物色の矛先が向かったことから、ハイールド社債市場でも関連銘柄が買われました。

## 【新興国債券（米ドル建て）】

原油価格の調整から、アフリカ・中東や中南米産油国が軟調でした。一方、銅などの産業金属相場が上昇基調にあることからチリなどの生産国は堅調でした。小売売上高が予想を上回る伸びとなったブラジルも上昇しました。

## 【コモディティ（金・原油）】

金は、リスク回避姿勢の強まりと米長期金利の低下などが買い材料視されました。原油は前週に続き大幅な下落でした。ガソリン需要が低迷したままでドライブシーズンが終了し、暖冬予想もあって原油需要の回復には時間がかかるとの見方が支配的になりました。米原油在庫が予想に反して増加したことも嫌気されました。

## 【米ドル指数】

米株式市場が荒れた展開だったことからリスク回避の米ドル買いが優勢でした。英ポンドが対米ドル・円・ユーロなど主要通貨に対し大幅安となりました。



## 当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：CME上場のWTI原油先物取引の期近限月（1番限）価格（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ